

イノベーション概論



経営戦略研究科准教授(経営戦略専攻) 玉田 俊平太

安倍新政権が発足し、イノベーションを担当する大臣が初めて置かれました。また、最近、企業の広報資料に「我が社は〇〇分野のイノベーターを目指します」と謳われているのをよく目にします。しかし、「イノベーションとは何ですか?」と聞いてみると、人によって答えが違っていることがよくあります。インベンション(発明)との区別もあいまいです。そこで、本稿ではイノベーションの定義について理解を深めたいと思います。

私の名前の元になった経済学者ジョセフ・シュムペーターは、「資本主義・社会主義・民主主義」の中で、木炭釜から溶鉱炉に至る鉄鋼生産装置の歴史、水車から近代的な工場に至る動力の歴史、馱馬車から飛行機に至る運輸の歴史、手工場からU. S. スチール(現在のUSX)のような大企業に至る企業組織の発展などを例に示し、資本主義の本質を、不断に古きものを破壊し新しきものを創造して経済構造を変革する産業上の突然変異の課程であると書いています。彼はこの資本主義の本質的課程を「創造的破壊」(Creative Destruction)と名付けました。

そして、資本主義企業が創造する「新消費財」、「新生産方法ないし新輸送方法」、「新市場」、「新産業組織形態」が、資本主義のエンジンを起動し継続させると述べています。つまり、これらの「新しさ」が創造的破壊をもたらすと考えたわけです。また、産業組織が変わらない場合の生産方法の改善と比べて、「新商品」、「新技術」、「新供給源泉」、「新組織型」から来る競争の方が、価格や品質で決定的な優位を占め、既存企業の生存自体を揺るがすものであると述べています。

つまり、シュムペーターは、イノベーションという言葉こそ用いていないものの、資本主義の本質である創造的破壊は「新商品」、「新生産方法ないし新輸送方法」、「新供給源泉」、「新組織型」、「新市場」などによってもたらされると述べているわけです。

クリス・フリーマンは、The Economics of Industrial Innovation の中で、「産業イノベーションには、技術に加えて設計や製造方法、経営手法、そして商業上の活動が含まれる。これらの活動は、新規の(または改良された)製品を市場に導入する際に、あるいは新規の(または改良された)製造方法や機械を初めて商業的に利用する際に生じるものである。」と述べています。イノベーションは、技術革新と訳されることもありますが、フリーマンの文章からは、新しい技術だけでなく、設計、製造方法、マネジメントなどの新規なものもイノベーションに含まれること、および、イノベーションは製品(プロダクト)あるいは製造方法(プロセス)を新しくすることあるいは改善する際に生じることがわかります。

ロズウェルとガーディナーは、「イノベーションとは、飛躍的な技術進歩を商業化すること

(画期的イノベーション)のみを意味するのではなく、技術的ノウハウを少しずつ変化させ実用化すること(改善、もしくは漸進的イノベーション)も包含する言葉である。」と述べています。イノベーションというと、たとえば真空管からトランジスターへの変化のような、不連続的で著しい新規性が必要であると言う人も居ますが、彼らは、日本企業が得意とするような地道な「カイゼン」の重要性を指摘していると言えましょう。

「イノベーションとは企業家のための特別なツールである。企業家はそれを利用して変化を好機へと変換し、今までとは違うビジネスやサービスを実現する。イノベーションはまた、学問として享受されうるものであり、それを学習し、実践することができるものである。」*Innovation and Entrepreneurship* に出てくるドラッカーの文章のなかでは、イノベーションにサービスも含まれること、イノベーションは学びうることの2点が重要だと思われる。また、ビジネススクールにおいて経営を学ぶことによって、イノベーションの成功確率を高めることができることが示唆されています。

マイケル・ポーターは、*The Competitive Advantage of Nations* のなかで、「企業は、イノベーション活動を通じて競争上の優位性を獲得する。企業のイノベーションに対するアプローチは広範囲にわたっており、そこには新技術開発のみならず、何かを実行する際の新しいやり方すべてが含まれている。」とイノベーションこそが競争優位の源泉であり、「新しいやり方」は全てイノベーションであると定義しています。

イノベーションの語源はラテン語の *Innovare* (インノヴァレ) で、その意味は “to make something new” すなわち「何かを新しくすること」です。しかし、新しいだけで社会に全く受け入れられなければ、資本主義の本質である経済構造の変革は起きないでしょうし、それを販売する企業も競争上の優位性を確保することはできないでしょう。あるアイデアに新規性があれば、特許として保護されるかもしれませんが、特許がもたらえたからといって、そのアイデアを盛り込んだ商品が商業的に成功するとは限りません。イノベーション(発明)は、社会で広く実用に供せられて初めてイノベーションと呼びうるのです。

そこで、英国貿易産業省では、イノベーションを「新しいアイデアを成功させる」と定義しています。また、パビットらが著した「イノベーションの経営学」では、「イノベーションとは、機会を新しいアイデアへと転換し、さらにそれらが広く実用に供せられるようにする過程である」と定義しています。

ここで強調しておきたいのは、イノベーションの概念には、アイデアの新しさに加えて、そのアイデアが市場に受け入れられて普及すること、すなわち、「経済的成功」が暗黙的に含まれているという点です。「イノベーションを起こそう！」という安倍政権の目標を意識すれば、「新しいアイデアをどんどん考え出せ、そして、そのアイデアを経済的に成功させる！」となるでしょう。